

命を守る家

—人口動態統計から見える住宅の安全—

- ・人口動態統計
- ・家庭内事故の現状
- ・住まいの安全を守る企業

【文楽】

お誘いを受けて文楽を鑑賞してきました。人形と一緒に人形遣いの方がそばにすることが不思議でしたが、生きているかの如く動く人形に圧倒され、物語に没頭してしまいます。



さて、「文楽」も「歌舞伎」も、「落語」も、舞台上で表現される季節感が素晴らしいと改めて思いました。

舞台の幕が開くと、そこは雪がシンシンと降り積もる雪景色の中で緑り広げられる日常であったり、団扇を

パタリパタリとしながら浴衣姿で過ごす日常であったりします。衣装も違えば、食べ物も変わってくる。

日本の四季の美しさと四季折々の暮らし方の貴重さを実感しました。現代の暮らし方は300年後、どのように日本文化に重なるか、未来世代がどのように感じるのだろうかと思いました。

もう少しちゃんとしなくちゃ・・・と自身を振り返って反省しています。季節を愛でて暮らすことを意識してみようと思います。考えてみれば、暮らしの中で四季の寒暖差から解放されたことが幸せでもあり、日常の季節感がゆるくなった原因でもあるかもしれません。

300年後、現代を題材にした文楽が生まれているとしたら、どんな物語になるのでしょうか。

ママはインテリアコーディネーター

一般社団法人 日本インテリアアテンダント協会 理事長 小川千賀子



歩んで来た道には、数えきれない別れ角があって、今、ここに居る。記憶に埋もれた角もあれば、忘れ去られた角もある。同じ街角が道標となる人も居れば、ただ通り過ぎてゆく人も居る。

命を守る家

人口動態統計から見える住宅の安全

日本の死亡者数は年間150万人をゆうに超え、出生数は年間80万人を切り、人口の減少に歯止めがかからない状況です。また100年に1度のウィルスが襲い、災害級の降雨や日射が続きます。こうした多くの現象が、人口動態統計の中に記録されています。この人口動態統計を見ると、住宅の安全に関する思わぬ見方を発見することにもなります。

人口動態統計

日本の人口が1億3000万人を切り、毎日のように少子化対策のニュースが流れ、深刻な将来問題を抱えていることが伝わってきます。それに加えて、コロナ禍や洪水などの自然災害、それと灼熱による熱中症など生命の危険にもさらされているように感じます。ニュースで伝わる危機感をしっかりとデータで確認できるのが厚生労働省による人口動態統計です。

この国の最も基幹となるデータの中には、出生数と死亡者数が、性別はもちろん、各都道府県に分けて集計されています。「命を守る家」をテーマにしようと思えば、この人口動態統計の中に記されている死亡者の内訳を分析すれば

は見てきます。

日本人では、2人に1人が発症するといわれる癌を始めとした疾病が、最も大きな死亡原因となっていることは誰でも簡単に想像できることだと思います。さらには高齢社会に伴い、老衰による死亡も17万人を超えています。そしてこの人口動態統計のデータの中で注目するのは、「不慮の事故」による死亡者の項目です。2005年以降の実数をグラフにしてみました。

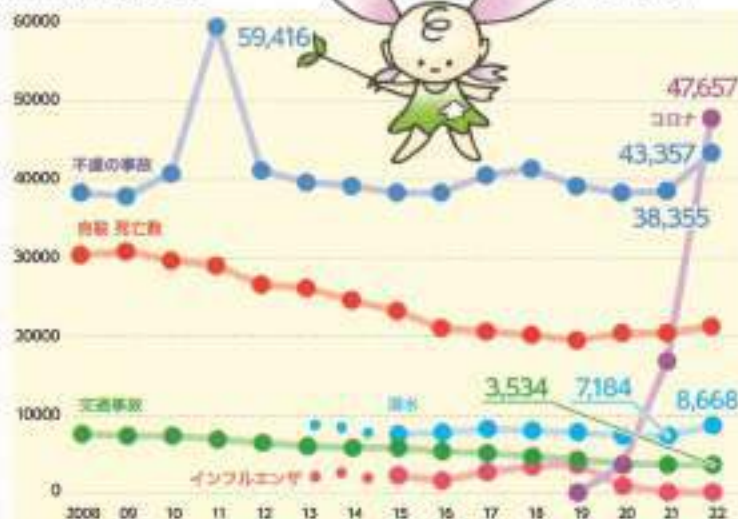
すると、真っ先に目につくピークがあります。2011年に

多くの死亡者を出した東日本大震災の大津波による激甚災害です。病気で亡くなるのは違い、突然に訪れる死という現実を残された人の心に刻まれると同時に、このように人口動態統計の中にもはっきりと刻まれているのです。

このような大規模な災害があれば、多くの人は地震や台風などに強く、家族の命を守ってくれる家と考えるのも当然のことです。安全性は、住宅の最も大事な機能のひとつです。

人口動態統計の中では、大きな災害がなくても、毎年およそ4万人の人が不慮の事故で亡くなっています。不慮の事故といえ、交通事故を思い浮かべる人も多いかと思いますが、交通事故による死亡者数は大きく改善

され、今や



3500人にまで減ってきました。飲酒運転の厳罰化による法規制の効果も大きいと思われますが、自動車の安全性も大きく改善されてきた結果だと思われます。今後は、さらにAIによる自動運転等が普及すると、もっと死亡者数が減る可能性があります。

このグラフの中に、自殺による死亡者の数を加えてみました。一時期3万人を超えていたのに比べれば減少してきましたが、それでも東日本大震災の犠牲者・行方不明者の数を超えます。数百年に一度といわれる大災害の犠牲者以上の命が、毎年、自殺によって失われていることになりました。

さらに、疾病の中からインフルエンザの死者数(2015年以降)と、人口動態統計上では「特殊目的用コード」に分類されている、新型コロナによる死亡者数も記載してみました。2012年には47,657人を数え、不慮の事故の死者数をも超えました。この期間、インフルエンザによる死者数が30人以下まで低下したのも衆知のことですが、大災害を大きく超えるような災禍であったことが改めて確認できます。

そして、さらにグラフに加えられるのは、不慮の事故における溺水者の数(2015年以降)です。この人口動態統計の数値が、家の命に関わる大切なはなしにつながってゆきます。

水難事故

毎年、子ども達が夏休みを迎えると同時に、水難事故のニュースが流れるようになります。夏の暑さから涼を求めて、子ども達だけではなく大人も水辺に集まります。水辺の機会が増えれば事故の確率が増えるのも当然です。

2021年の人口動態統計では、年間に7,184人の方が溺れて亡くなっています。交通事故による死者数の2倍もあると考え、簡単に見過ごせる数ではありません。ところが、この溺死者の発生時期と場所を知ると、一瞬驚いたくなる現実があります。

溺死事故の多くは夏に起きているのではなく、しかも4分の3にあたる5,398人は家庭内で起きているのです。つまり、プールや海・川・池で溺死した人の総数よりも、家庭内で溺れて亡くなっている人は3倍もあるのです。



しかも、その94%にあたる5,054人は、65歳以上の高齢者です。人口動態統計では、こうした家庭内事故の数も公表されています。家庭内で溺れるとすれば、その多くは浴室です。

ヒートショックの怪

このような事故で思い浮かべるのは、ヒートショックで、年間1万人以上の方が亡くなっているという情報です。地方独立行政法人東京健康長寿医療センター研究所と日本全消防本部による推計値として発表されていますが、明確なデータが取られていないことは、発表資料にもあらかじめ断られています。

発表されている当初の、14,000人からさらに増えて、19,000人と書かれていることもあります。省エネ住宅や断熱性をアピールしようとする企業が広められているようですが、人口動態統計による裏付けはありません。

そもそも、過去に比べて格段に高断熱住宅が普及し始めている時代に、ヒートショックによる死亡者が増えているとすれば、断熱住宅との関連性が無いことになってしまいます。

寒暖差のある浴室に行って意識を失い、浴槽の中で溺れることも十分に考えられることですが、高齢者の家庭内溺死者のほぼ半数を数えたとしても5千人であり、同様に寒い廊下に出て意識を失いつまづいた人を無理に加えても6千人が限度です。不慮の事故だけではなく、高血圧などの持病を持っている人などの数を推計に加えないと足りません。

断熱材や冷暖房の普及に向けて話すには恰好のデータですが、数字だけが独り歩きしては、いたずらな不安を煽ることになりかねません。

命を守る家

人口動態統計から見える住宅の安全

さらに、人口動態統計では浴室ではなく浴槽内の溺死であり、どうやら日本に固有の事故となっている傾向もあります。

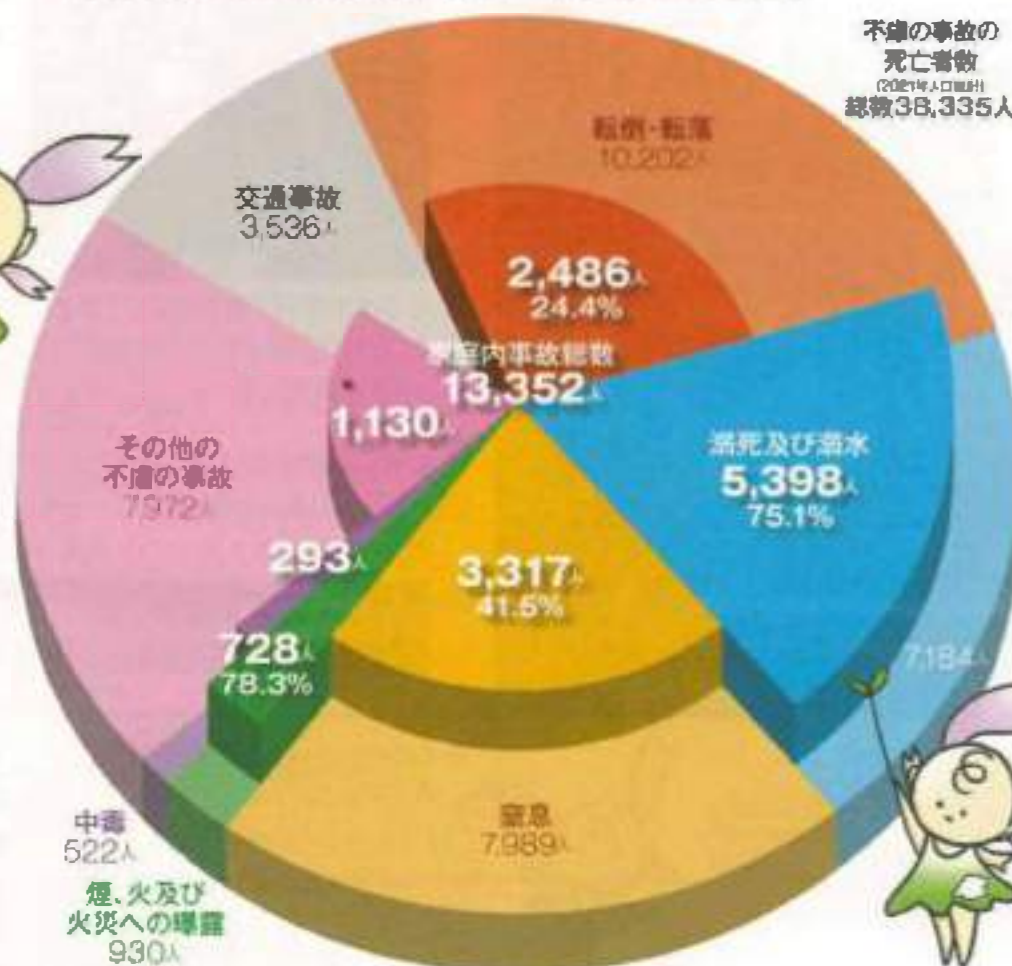
しかし、露天風呂など明らかに寒暖差のある公衆浴場での発生数は少なく、地方より東京などの都市部に多いことも、ヒートショックとの連動性は薄く、家の断熱性能や冷暖房ではない別の関連要素がありそうです。

現実、似たような状況になって救

済者は、ほぼ8割が自宅が発生し、勤務先や外出先で火災に巻き込まれるケースは少なくなります。

確かに、死者が発生した火災現場のニュースのほとんどが、戸建や集合住宅などの個人宅の火災によるものです。

住宅内以外で起きていることが明確である交通事故の数を除いて、不慮の事故の総数と、その内、家庭内で起きている事故の数と割合をあらためて左のグラフにしてみました。



不慮の事故の
死亡者数
(2021年人口統計)
総数38,335人

急死で運ばれたものの命をとりとめた方々の症例では、心電図や頭部CT検査で脳や心臓の異常は見られず、血圧も正常値の範囲内という調査報告もあります。一方、意識障害と関連しているのは深部体温であり、ヒートショックではなく、いわゆる「熱中症」の症例に近いものです。

熱い湯に長く浸かることによって血管が膨張し、血液が脳に回らなくなることで、熱中症で意識が失われることがあるのと同じ発症を起こしているのです。家の性能的な要因よりも、熱い湯に長く入らないような習慣を身につけることが大事です。

家庭内の事故

それでは溺水の以外の死亡原因では、家庭内事故はどうなっているのでしょうか。不慮の事故による死者数全体の中で、家庭内で起きている事故の割合は35%です。

たとえば、転倒・転落という事故は、家庭内では少なく、3分の2以上は外出先で起きている。逆に、火事などによる

最初に取り上げた溺水が、いかに住宅内で起きている頻度が高いかということがわかります。そして、この溺水事故には、意外な扱いにくい側面を秘めています。

家の中の危険な場所

溺水による不慮の事故がニュースで流れる時は、プールや河川でのケースがほとんどです。ですから、家の中で起きている溺水事故の現実を知らない人が多いようです。ただ、珍しいことでなければニュースにならないという理由ではありません。

事故の原因に、本人もしくは介護者など周囲の人の不注意が上げられるからです。溺水という不慮の事故によって身内を失ったことのショックに加えて、ニュースに流れることで2度目のショックを受けることになってしまいます。

それだけに、日常的な家の中で溺水という事故が起き、交通事故の倍、阪神淡路大震災に匹敵するほどの人が亡くなっているという事実を知り、肝に命じておくことは大事なことです。

実際の事例では、深さが10cmでも溺死しているケースがあります。何らかのきっかけで、気を失って倒れてしまえば、結果的に溺水が直接的な死因となってしまいます。

また、家庭内の溺水事故は、発生している件数の統計が取りにくい事故でもあります。怪我などの場合は、治療のため医療機関に行くことで医学会の統計が取れますが、溺水事故は無事であれば医師にかかることも少なくなります。そのため医学会でも、家庭内の溺水事故の発生件数はつかめないのです。

子どものための安全

また、家庭内事故で死亡する人の多くは、高齢者ですが、溺死の例では子どもの事故も散見されます。高齢者の死因の上位は何らかの病気によるものですが、子どもの死亡原因の1番は、不慮の事故です。しかも子どもが小さくなれば、家庭内の比率も大きくなります。建設学会に発表された死亡に至らない怪我の調査では、圧倒的に子どもに対しての対処が必要とされています。

浴室への安全対策では、高齢者と子どもへの対策には難しい側面があります。たとえば、高齢者の浴槽への出入りを楽にするためには、またぎの寸法を低くしたほうが使いやすくなります。一方、幼い子どもが滑って浴槽へ転落する事故を招くことになりかねません。子どもの事故を考えれば、浴槽の縁は少し高いくらいの方が良いといえます。

また、地震時に緊急用の水を確保するために、浴槽には常に水を張っておくことが求められることがありますが、これも日常となれば、子どもの溺水事故を招きかねません。何よりも幼い子どもがいる家庭では、水回りの扉には表から鍵がかけられるようにしておく必要があるようです。

住まいの安全を守る企業

安全であることは、食品を含め、すべての製品において最も優先されるべきことです。その安全性といえば、地震に丈夫で性能が高い家ばかりがアピールされることが多いようです。しかし、性能を高めただけでは、安全性に配慮した住宅建設企業であるとはいえません。日常の暮らしと密接に関係している住宅では、性能よりも家庭内事故のような安全への情報をお伝えすることが大事な使命でもあるのです。

新しい住まいやリフォームを検討する時には、性能や技術の他に、さらに深い「住まいの安全」について住宅社会に問い合わせてみてください。

このような安全に関する情報を活用し配布して、啓蒙活動を行なっている企業が、ほんとうの安全を考えている企業になると思います。

リフォームに、新築に、
住まいづくりのセカンドオピニオンをお届けします。

うちのはなし 220円(税込)

www.ouchi874.org/

発行人：一般社団法人 住まい文化研究会

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸屋町1-3-7F

主筆 石川幹道

うちの家計簿

住まいの資金と税金

こんにちは、

アールです!

LRコンサルティング株式会社
代表取締役 吉川浩一



逐に米たか!って感じですが、

これまで住宅ローンの返済期間は、一部の銀行や長期優良住宅を取得する際に利用できる全期間固定型のフラット50を除いて、35年から40年の返済期間が一般的でした。

ところが先日、住信SBIネット銀行が住宅ローンの最長返済期間を現在の35年から50年に伸ばすと発表。これまで適用金利の低さで住宅ローン競争を主導してきたネット銀行の戦略が大きく変わります。

背景にあるのは最近の長期金利の上昇で変動金利の住宅ローンを組むことに不安を抱く消費者が増えていることです。いくら低い金利でローンを組んでも、返済途中で金利が上がって毎月の返済額が増えたらどうするのかと考えますよね。

そこで下表にこの住宅ローンの概要を表記しておきます。

次号では50年住宅ローンの活用方法についてお伝えしますので、皆さんも検討してみてください。



対象商品	住宅ローン(WEB申込コース)(対面相談コース) NEOBANK住宅ローン
ご利用いただける方	次の条件をすべて満たす方 ・借入前年齢が満18歳以上満65歳以下、先済期間80歳未満のお客さま ・安定かつ継続した収入があるお客さま ・当社指定の団体信用生命保険にご加入を認められるお客さま ・国内にお住まいのお客さま
借入期間	【新規のお客さま】 1年以上50年以内
借入金額	500万円以上2億円以下(10万円単位)
金利上昇せ	借入期間を35年超～50年以内でお借入れいただくお客さまは、住宅ローンの適用金利に年0.15%が上昇せとなります。
金利タイプ	・変動金利タイプ ・固定金利特約タイプ (2年・3年・5年・7年・10年・15年・20年・30年・35年)
団体信用生命保険	団体信用生命保険(引受保険会社:561生命保険株式会社)にご加入いただきます。
事務取扱手数料	借入金額の2.2%(税込)

住まい文化の栞

住まい文化の価値

東日本大震災から、干支が一回りしました。人口動態統計にも刻まれるほど、大きな被害を残し、忘れられない人も多いはずですが、

大津波によって、被災地では街や道路といった社会インフラが壊れ、国を上げての復興事業が進められてきました。ただ、元に戻せば良いものではありません。将来に同じ災害に遭わないよう回避する術を継承して行く必要があります。その為には、文明的な対策と文化的な対策があります。

文明的な対策とは、たとえば大津波の経験に基づき、新しい想定で防潮堤を作ることです。あるいは人工地盤を作って、その下を津波が抜けるように街を作るとか、高台に新しい街を拓き移転するとか、人間の文明技術を駆使して対策を進めることです。

しかし日常的に長い期間を生活をしていると、防潮堤で海が見えなくなり、地盤や高台が

ら海との行き来を煩わしく思うことなどで、いずれ守られなくなってしまう可能性があります。

一方、文化的な対策とは、たとえば避難訓練です。避難訓練を続けることは、津波の恐怖を忘れないようにしてくれます。文明的な対策に頼るあまりに、安全であると信じてしまうことが避けられます。

避難訓練と同じ文化的な対策として、石碑を建てることがあります。明治29年の大津波による被害を、忘れないために立てられた石碑が残されています。

「高き住居は児孫の相象

想え惨憺の大津波

此処より下に家を建てるな」

2011年の東日本大震災でも、石碑の60m手前で止まったといいます。日常の利便性は災害を忘れさせてしまいがちですが、子や孫や未来を守るためには忘れないことが何よりも大切なことです。住まい文化の中にも、大きな価値が残されているのです。



家づくり
庭づくり

ガーデンで「涼」を得よう

樹木は庭の骨格を担い、空間に奥行きや立体感を作り出す大切な要素です。足元に草花だけが咲いているよりも、頭上に緑の枝葉が揺れる庭には安心感も生まれます。とりわけ真夏は、緑陰を提供してくれる樹木があると、庭の快適度は大きく変わります。

しかし住宅事情によっては、あまり太木になる樹木は困る場合もありま

す。そんなときに有効なのが「株立ち」という選択です。通常、30mほどになるケヤキの木も、主幹が一本ではなく、数本に分かれた「株立ち」を選べば、土から吸収する栄養が複数の幹に分散するため、成長のスピードと樹高を抑えて育てることが可能になります。

ケヤキのような落葉樹は、家との関係を考慮して庭に配置すると、一年を通して室内に差し込む陽光のコントロールとしても活躍してくれます。

また、真夏に限るなら「グリーンカーテン」も効果的。窓につける性植物を通わせて緑で覆うことで、室内の温度は確実に

に下がります。定番植物はゴーヤ、アサガオ、ユウガオなど。パッションフルーツやブドウなどの果物も人気です。

さらに、ガーデングッズやエクステリアで、庭の快適性を高めることもできます。近年はパラソルやオーニング、リモコン操作で屋根の開閉ができる屋根立ち

地盤から複数の幹が立ち上がった仕立ての樹形を「株立ち」といい、庭やかさや繊細な雰囲気を出すことができます。ケヤキやヤマボウシ、トネリコ、ヤマモミジ、ソヨゴ、カツラなどの高木にあり、太木になりにくいので、庭木として人気のある樹形です。



根付きパーゴラなど、機能性やデザイン性の高いものもあります。

庭の中に屋根のあるスペースができると、日陰という恩恵だけでなく、開放的なリビングルームとしての機能も生まれ、ガーデンライフがより充実したものになるでしょう。

グリーンカーテン

つるを絡ませるネットなどを使い、窓の外側に性植物を通わせてカーテン状に仕立てます。横浜環境科学研究所が行った「緑のカーテンの温度低下効果」の実験によると、緑のカーテンがあると室内温度に1.4℃の差が生まれていることがわかりました。



Takasho

庭は五番目の部屋。



株式会社タカシヨ

5th
ROOM



山形県山形市

山形県山形市

山形県山形市

山形県山形市

山形県山形市

山形県山形市

山形県山形市

山形県山形市

山形県山形市

山形県山形市